

6月の農作業

平成20年6月10日
J A テ ラ ル 越 前
奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ★ 溝切りと中干しの徹底
- ★ オリゼメート粒散布でいもち病防除
- ★ 穂肥（早生）の適期施用
- ★ 特産野菜・花卉の病害虫防除の徹底

1. 今後の気象予想（新潟地方気象台）

北陸地方 1か月予報

（5月31日から6月30日までの天候見通し）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は低い確率60%、2週目は高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

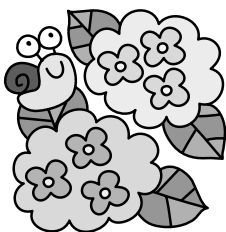
【気温】	北陸地方	30	40	30
【降水量】	北陸地方	30	30	40
【日照時間】	北陸地方	40	30	30

■ 低い（少ない） □ 平年並 ■ 高い（多い）

〈気温経過の各階級の確率（%）〉

【1週目】	北陸地方	60	30	10
【2週目】	北陸地方	20	30	50
【3～4週目】	北陸地方	30	30	40

■ 低い □ 平年並 ■ 高い



〈予報の対象期間〉

- 1 か 月：5月31日（土）～6月30日（月）
- 1 週 目：5月31日（土）～6月6日（金）
- 2 週 目：6月7日（土）～6月13日（金）
- 3～4週目：6月14日（土）～6月27日（金）



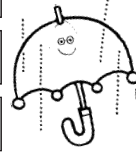
北陸地方3か月予報

〈6月から8月までの天候見通し〉

予想される向こう3か月の天候

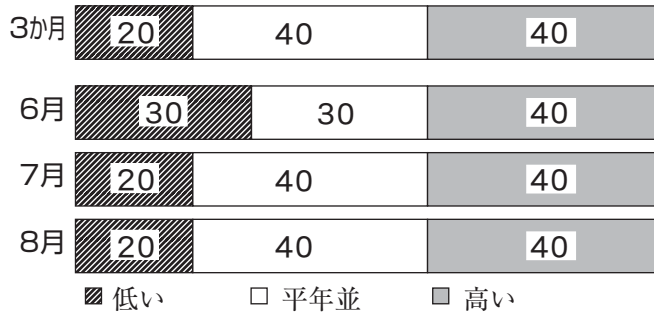
向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は左記のとおりです。

この期間の平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

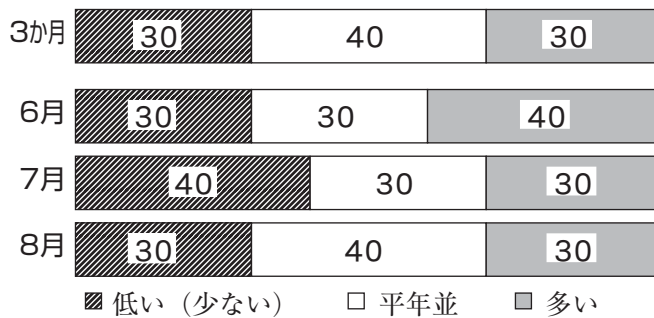


〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%)〉

気温 【北陸地方】



降水量 【北陸地方】



【6月】

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【7月】

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率とともに40%です。

【8月】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率とともに40%です。

2. 農産物対策

水 稲

補植用苗の除去・オリゼメート粒剤の散布を早急に！

溝切り

溝切りは中干しや後期の水管理（間断通水）を容易にするために行いましょう。

溝切りの時期

5月5日までに田植え

6月10～15日頃

5月6日以降の田植え

6月12～17日頃

中干し

中干しは無効分げつの抑制と土壌中の通気性を良くし、有害ガスを除き直下根の伸長を促進させるので、登熟歩合を高めます。また、窒素の吸収を抑え、加里やけい酸の吸収を多くするので、丈夫な茎を作り倒伏防止につながりますので、必ず実施してください。

中干しは幼穂形成期まで行い、終了後は一度に湛水状態に戻さず、始めは浅水管理を行い、徐々に間断通水を行いましょ。

特に漏水しやすい部分に大きなヒビが入らないように注意しましょう。

*開始時期の目安

(連休前) 6月10～15日頃

(連休後) (1株15本で開始)

6月12～17日頃

(1株15本で開始)

*暗渠のある水田では、中干し期間中は暗渠のフタを全開にしておいてください。

*乾田や黒ボク田では、軽くヒビが入る程度の中干しとしてください。

除草剤

バサグラン粒剤

ヒエ以外の雑草の多い圃場では、落水後10a当り3～4kg散布し、4～5日は入水しないでください。

注意：使用時期は、田植え後50日まで（収穫60日前）です。

ヒエクリーン1キロ粒剤

ヒエが多く残った圃場で、ヒエの4葉期まで効果があります。

湛水状態で散布し、4～5日は湛水を保ってください。

ヒエクリーンバサグラン3キロ粒剤

ヒエ・広場雑草が残った圃場で使用いたします。

落水後に散布し、少なくとも2～3日は入水しないでください。

その後は入水し、通常の湛水状態を保ってください。散布後、7日間は落水・かけ流しは行わないでください。

穂 肥

穂肥の施用量や施用時期は米の収量及び食味に最も影響を及ぼす稲作づくりのポイントです。

穂肥は籾数の増加や千粒重の増大などの効果がありますが、施用方法を誤ると倒伏したり、食味の低下を招くので必ず幼穂を確認し、葉色・生育を見て施用しましょう。
葉いもち病の発生予防

(オリゼメート粒剤の散布)

*オリゼメート粒剤の散布時期

6月上旬(全品種)に散布してください。但し、ジャッジを箱施薬した圃場では、通常は散布の必要はありませんが、常発地では、天候の具合を見て、6月下旬にオリゼメート粒剤を散布してください。

また、圃場の補植用苗は、葉いもち病の発生源となりますので、早急に処分してください。

主な使用薬剤

いもち病予防

オリゼメート1キログラム(出穂3〜4週間前まで使用可)

いもち病初発

イモチエース粒剤(収穫35日前まで使用可)

いもち病治療

ブラシン粉DL(収穫21日前まで使用可)
 カスラブサイド粉DL(収穫14日前まで使用可)

紋枯病防除

モンカットF粉DL(収穫14日前まで使用可)

畦畔の草刈りの徹底

例年、山沿いの圃場などで斑点米の原因となるカメムシが多く発生します。

カメムシの被害は、出穂後の薬剤散布と合わせて、6月末〜7月中旬にかけて畦畔の草刈りを行うことで、効果的に防除できます。

イナゴ防除

近年、管内にてイナゴの発生が多く見られます。6月下旬〜7月上旬にかけて幼齢虫が発生しますので、多発地帯ではアルバリン粉DLを散布し防除に努めましょう。詳しくは、お近くの支店の営農指導員にお問い合わせください。

ネギ

1、排水溝の再整備

梅雨入り前に排水溝の再整備を行い、排水性を高めてください。

2、除草と砕土について

ソバ跡圃場でソバが大量に発生している圃場があります。ソバが大きくなる前に管理機等で鋤きこむと同時に砕土率を上げ、土寄せ作業が行いやすいようにしてください。また、砕土率が悪い(ゴロ

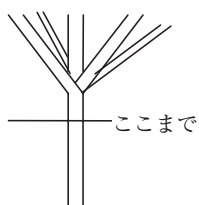
ゴロした土が多い)についても同様な管理を行ってください。砕土率の悪い圃場やソバが大きくなつてしまった圃場(根の塊が多い圃場)では、曲がったネギが多くなります。

3、灌水について

ペーパーポット付近の土が乾いている、定植部分に強いひび割れがある等、土が乾燥している場合は、ポンプ等を利用して灌水を行ってください。畝間灌水を行う場合は圃場内に停滞水ができないように灌水してください。また、過剰な灌水は生育不良、軟腐病の多発の可能性があるので、注意してください。

4、土寄せについて

本格的な土寄せ作業は、茎の太さが8mm程度になってから行ってください。また、土寄せを行う時は襟首(えりくび)までの土寄せとってください。土寄せ初期から襟首(えりくび)以上の土寄せを行っていると細かいネギが多くなります。



5、防除について

(は毒劇物)

○スリップス類、軟腐病対策

農薬名	散布量 (10aあたり)	使用時期	使用回数	備考
ジャッジ粒 〔ネギアザミウマ・軟腐病〕	3 kg	梅雨入り前に施用する。 (土寄せ時に株元散布)	1回	収穫45日前まで
オリゼメート粒 〔軟腐病〕	6 kg	梅雨入り前に施用する。 (株元散布)	1回	収穫30日前まで

※上記薬剤のいずれかを使用してください。

花 卉

キ

梅雨期に入りますが、出蕾から定植まで一度に作業が重なります。遅れないように確実に作業を行います。

○ネギハモグリバエ対策

農 薬 名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備 考
アグロスリン乳	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	展着剤を混入する
アルバリン顆粒水	400倍	収穫14日前	1回以内	0.4% / m ² を株元に灌注

○ヨトウムシ対策

農 薬 名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備 考
アグロスリン乳	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	展着剤を混入する
コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前	2回以内	

7月咲きの管理

○出蕾期に入り中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心がけてください。

○Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800〜1,000倍）は最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

○中輪ギクは花卉の病気予防のため全て雨除けハウスをかけます。

8月咲きの管理

○6月上旬までに畝の外側に遅効性の肥料を施用します。（1畝当り10kgその後、土寄せをします。

○降雨後、天気が続くとも新葉が縮れたり、葉やけ状態になる品種があります。ひどくなると芯止まりになりますので、カルプラスを出蕾するまで繰り返し散布します。（7〜10日に1度程度）

9月咲きの管理

○6月上旬までには9月咲きの品種のピンチ（摘心）を終えます。

○ピンチ後、20日程度で草丈が5cm以上になります。1株3本前後ですぐり（間引き）を行います。

○すぐり後は株張りが十分ではありませんので、雨風などで倒れる恐れがあります。早めにネットを上げてください。

10月咲きの管理

○開花時期に合わせ順次挿し芽・定植・ピンチ（摘心）を7月上旬までに終えるように行います。

病害虫防除

梅雨期に入ると病害虫が発生しやすくなります。早めの予防を心がけましょう。また、出荷時は菊に付着している水滴を良く乾かして梱包しましょう。

○白さび・黒斑褐斑・灰色カビ病

主な使用農薬

ジマンダイセンフロアブル・ラリー乳剤・ダコニール1,000・ベンレート水和剤など

○スリップス（アザミウマ類）

蕾の中にスリップスなどが入りやすと防除が困難になり品質が低下しますので、開花の早い品種から防除を徹底してください。

主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・ハチハチ乳剤・コテツフロアブル・テルスターフロアブル

○ダニ

草丈が20〜30cmに達した品種からピンポイントに防除します。この作業を怠ると梅雨明け高温乾燥期のダニの大発生につながります。

使用農薬

ニッソラン水和剤とオサダンフロアブルの混合剤を他の農薬と混ぜないで散布します。（品種ごとに1回ずつ）



ユリ

○6月中旬までは液肥（OKF-1・500〜1,000倍）を1週間に1度程度施用します。

○降雨後、急激に温度が上がるとカルシウム欠乏症（葉先が褐変したり、リング状のかすりが入る症状）が出やすくなる。

対 策

微量要素入りの肥料（サンメイト）の500倍液を施肥前日に溶かして施用する。

病害虫防除

○葉枯病

葉枯病が発生すると農薬を散布しても病気を抑えにくいので予防防除を徹底しましょう。

主な使用農薬

ICボルドー66D（草丈20cmまでの使用）・ダコニール1,000・フロンスアイド水和剤・フルピカフロアブル

○アブラムシ

主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・トレボン乳剤・アドマイヤーフロアブル